

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2025 年 3 月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI 値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

全産業の DI は売上額がマイナス 14.5(前期比 2.3 ポイント低下)、採算はマイナス 30.9(同 3.9 ポイント低下)、資金繰りはマイナス 18.3(同 2.6 ポイント低下)となったが、売上額と資金繰りは 3 期、採算も 2 期連続で悪化した。

主要3DI を 1 年前の同時期と比較しても、売上額はマイナス 4.3 ポイント、採算はマイナス 3.0 ポイント、資金繰りはマイナス 1.1 ポイントといずれも下回って推移している。

当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の 4 分野でみると、製造業と小売業の売上額、そして製造業の資金繰りのみが前回から改善したものの、その他の分野はほとんどが低下している。

経営上の問題点としては、引き続きコスト面が 1 番の問題としてあげる経営者が多数を占める。製造業「原材料価格の上昇」32.6%(対前期 0.2 ポイント減)、建設業「材料単価の上昇」37.9%(同 3.8 ポイント増)、小売業「仕入単価の上昇」31.4%(同 3.7 ポイント増)、サービス業「材料費等の仕入単価の上昇」34.9%(同 1.8 ポイント増)はいずれも全体の 3 割前後の経営者が指摘しており、2 位以下を大きく引き離れた状態が続いている。

今回の調査結果では、中小企業全体の景況が前回より悪化し、停滞感が続いていることが示された。国際的な動向をみても、ウクライナや中東情勢に加え、トランプ政権の関税政策が世界の金融市場の不安的化を招き、経済見通しの不確実性は以前より高まっており、引き続き今後の活動には注意が必要である。

<地域別>

【全国】

2025 年 1-3 月期の全産業の業況判断 DI は、▲12.8(前月差 2.2pt 増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断 DI は、▲17.6(前月差 1.3pt 減)となり、前月から悪化した。

建設業の業況判断 DI は、▲9.1(前月差 0.2pt 減)となり、前月から悪化した。

商業の業況判断 DI は、▲17.3(前月差 4.3pt 増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断 DI は、▲7.2(前月差 5.9pt 増)となり、前月から改善した。

産業全体において、前年同月比で全ての DI が下回っており、景気回復の兆しはあるものの、その歩みは緩やかであり、本格的な回復には時間を要する状況である。

【兵庫県】

企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。
個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。
輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。
生産は、横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。
倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲19.6 で、全国 DI(▲12.8)、兵庫県 DI(▲17.9)と比較すると最も低い。
売上高は、▲21.6 で、全国DI(8.2)、兵庫県DI(▲12.9)と比較すると最も低い。
採算状況は、▲49.0 で、全国DI(▲17.0)、兵庫県DI(▲25.2)と比較すると、最も低い。
資金繰りは、▲39.2 で全国 DI(▲14.0)・兵庫県 DI(▲12.7)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

- ・コロナ禍から来客数が減少し、回復に至っていない(理容室、他)
- ・高齢化等に伴う顧客減少が著しい(美容室)

(商業 小売、卸売等)

- ・原油価格高騰により利益が見込めない中、人件費等の各種経費が高騰(ガソリンスタンド)
- ・物価の上昇により購買意欲が低下している。少子化も影響している(小売店)
- ・仕入単価上昇に値上げが追い付かない。送別会等の需要があったが利益が出せていない(飲食店)
- ・大手スーパー等の売価と自社の仕入価格と変わらない。価格競争では絶対に勝てない(小売店)

(建設業)

- ・新築やリフォームの依頼が無く、大工の需要が無い。機械の部門で乗り切るしかない。大手の下請けに入っても、利益がほぼない(建築業)
- ・材料入荷の遅れにより、工事が止まることがある(建設業)

(製造業)

- ・海苔業者が好調であったので、その影響で売上が高い(造船業)
- ・漁師の仕事量に受注が変動する。気候変動の影響が大きく、仕事量の予測がつかず不安(鉄工業)
- ・従業員高齢化による生産性低下が不安だが、若年層の雇用は困難である(食品製造業)

<業種別業況>

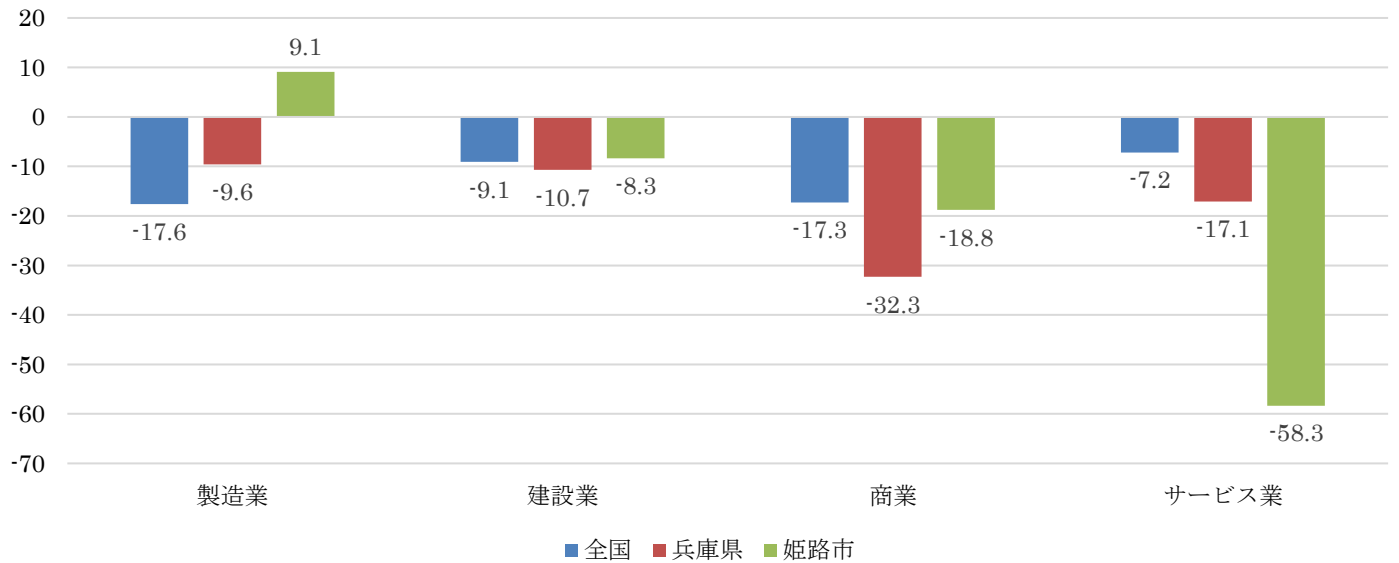
全国的な産業全体の景況は、売上額・業況 DI が小幅に上昇し、採算・資金繰り・業況 DI はわずかに上昇した。前年同月比では全ての DI が下回っており、景気回復の兆しはあるもののその歩みは緩やかであり、本格的な回復には、なお時間を要する状況である。季節的要因や 4 月以降の値上げを見越した駆け込み需要などから売上が増加した業種がある一方で、米国関税引き上げによる影響を懸念する声も多い

<総括コメント>

国内景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響や、通商政策などアメリカの政策動向による影響などが、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

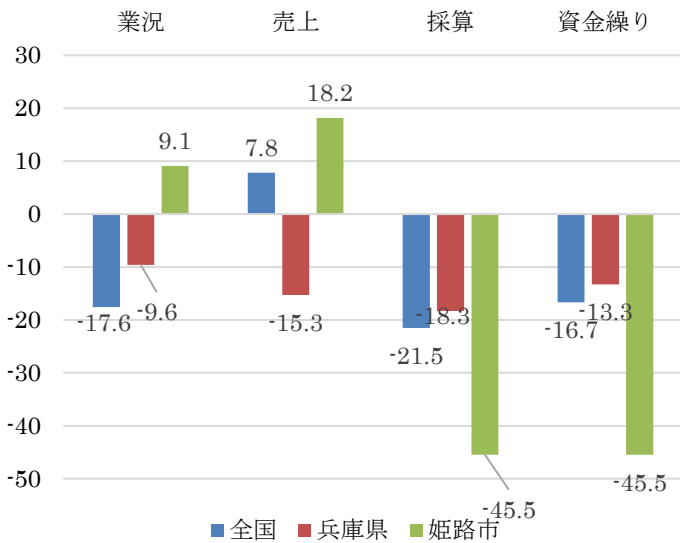
業種別 DI 比較グラフ

業種別 業況D I 値比較

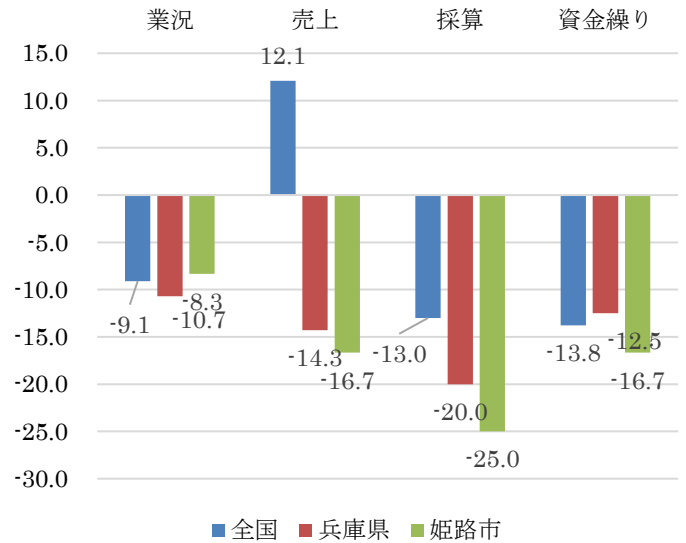


全業種 DI 比較

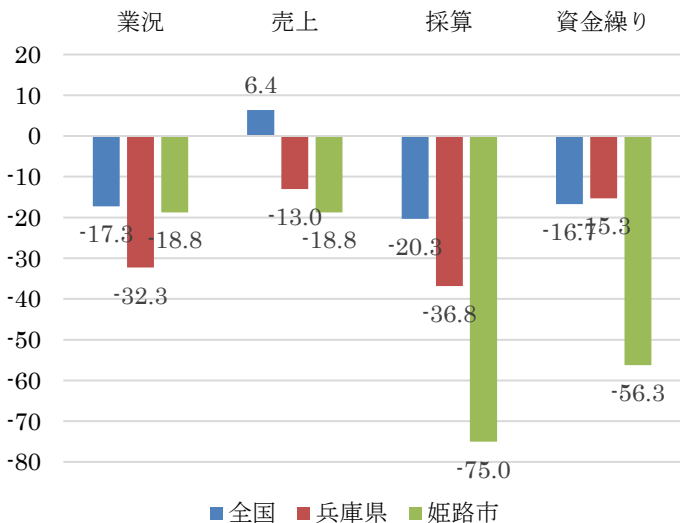
製造業D I 値



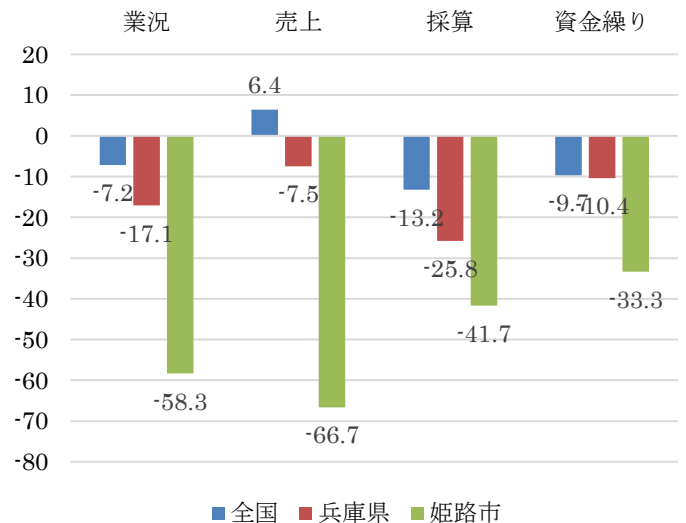
建設業D I 値



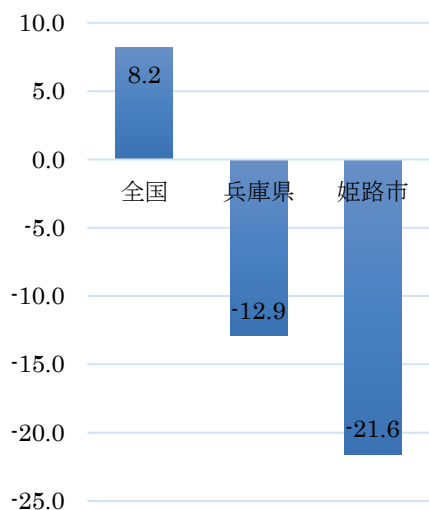
商業D I 値



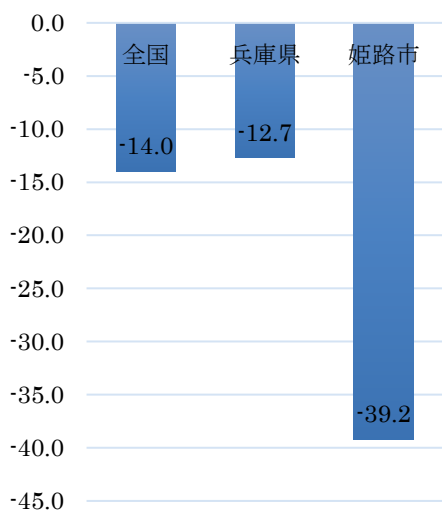
サービス業D I 値



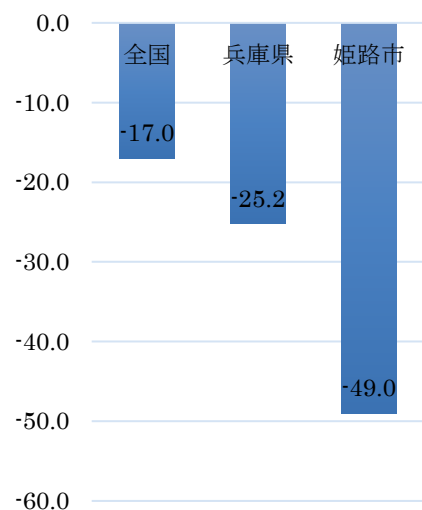
売上D I 値



資金繰りD I 値



採算D I 値



管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍

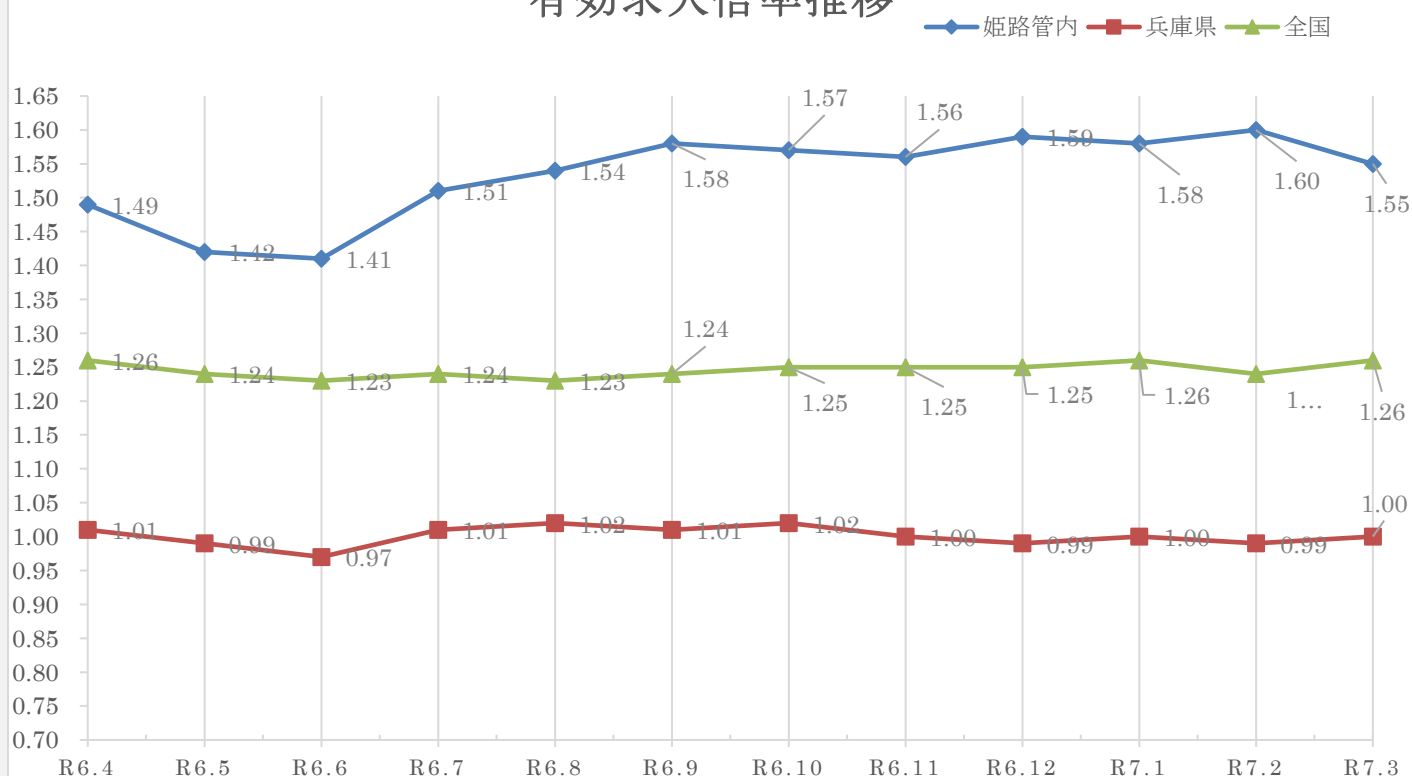
令和 7 年 3 月期の有効求人倍率は、全国 1.26 倍、兵庫県 1.00 倍、姫路管内 1.55 倍となっている。

令和 6 年 4 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。

姫路市は、令和 6 年 6 月を境に増加し、同年 9 月頃からは 1.5 倍から 1.6 倍程度で推移しながら横ばい傾向であり、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、「主要産業の新規求人数を原数値でみると、弱い動きが続いている」と指摘。有効求人倍率は改善した一方で、情勢判断を据え置いた。「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘もあった。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較